

JCDかわら版

一般社団法人 日本コンクリート診断士会

地域に貢献するコンクリート診断士

(一社) 日本コンクリート診断士会 会長 林 静雄

平成24年12月に発生した笹子トンネルの天井落下事故を受けて、平成26年3月に「5年に1回の近接目視による点検」を義務付ける告示が公布され、民間技術資格としてコンクリート診断士が認定されたことはご存知の通りです。

国土交通省の道路メンテナンス年報によれば、全国に、約72万の橋梁がありますが、平成26年度から28年度の3年間で約40万橋の点検が行われ点検率は55%です。点検率は国の57%、市区町村の54.1%で、管理者による点検率の違いはありません。

区分Ⅳ（緊急措置段階）と診断された橋梁は396橋ありますが、94%の371橋が市区町村管理のものです。396橋のうち28年度末までに対応が済んだ橋梁は105橋の26%で、約20%の76橋は、全く未定の状態です。区分Ⅲ（早急措置段階）、区分Ⅱ（修理が望ましい）と診断された橋梁に対する対応状況については、28年度分が発表されておりませんので、26年度、27年度の2年間で見てみますと点検済の橋梁総数は約20万橋であり、区分Ⅲの橋梁は、12%の24,000橋になります。対応に着手した橋梁は、13%の3,085橋となっています。40%が対応済の区分Ⅳの橋梁と比較すると遅れているのがわかります。さらに、区分Ⅲの橋梁に対する対応率は、国が47%に対し、高速道路が16%、都道府県が9%、市区町村が11%と地方自治体での遅れが見られます。区分Ⅱでは、対応がなされた橋梁は国で12%、高速道路で1.3%、都道府県で0.8%、市区町村で1.8%とほとんど手つかずの状況です。

点検後の対応として、国は「計画的に修繕や架替を実施し、必要な修繕ができない場合は、利用状況を踏まえて集約化」するために、「予算措置、体制作り、技術者の確保、技術開発」を求めています。こうしてみると、道路の老朽化対策は始まったばかりです。橋梁保全業務に携わる土木技術者がいない自治体は、町の約3割、村の約6割という状況にあります。点検・診断の知識・技能・実務経験を有する技術者の確保がこれからはますます必要になり、コンクリート診断士に対する期待はさらに大きいものとなると思われます。皆様のご活躍を大いに期待しています。

活動近況

2018.5.16

事務局にて竹内総務部会長と理事会・総会の進め方について打合せ実施

2018.5.28

総会直前理事会の開催
第9回定時社員総会の開催

2018.6

全会員へ新会員証の発行
定款、理事会メンバーの変更に伴う定款の更新申請準備中

詳しくはHPをご覧ください

<http://www.jcd-net.or.jp/>

info@jcd-net.or.jp

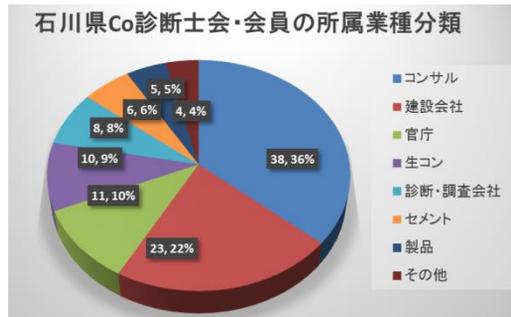
地区診断士会の紹介



石川県コンクリート診断士会

《組織情報》

- ・設立：平成18年6月（活動歴12年）
- ・会員数：正会員100名，賛助会員8名，法人会員13社



《主な活動》

- ◇技術講習会
- ◇現場見学会
- ◇県コンクリート研修会講師派遣
- ◇コンクリート診断士受験講座
- ◇コンクリート親子体験会、小学校出前講座
- ◇診断事例発表会&劣化事例によるケーススタディ
- ◇北陸三県コンクリート診断士会の連携事業

「JCI中部支部主催フォーラム」開催 (H30.4)

北陸のコンクリート構造物の未来を考えるフォーラム

～これからの維持管理を担う人材をいかに育成するか～



コンクリート構造物の深刻な早期劣化が発生している北陸地方において、地域の技術者や若手研究者、あるいは自治体職員に維持管理技術を伝承することが喫緊の課題となっています。本フォーラムは、中部支部における調査研究事業の活動として、北陸三県コンクリート診断士会（石川・福井・富山）ならびに北陸SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）と連携しながら、産官学民の技術者や若手研究者の人材育成と技術継承に努める取り組みについて、発表およびパネルディスカッションを開催するものです。このような人材育成に関する取り組みを情報発信することで、会員ならびに北陸地方の技術者や若手研究者の活性化に寄与するものと考えています。

日時

2018年4月27日(金)
13:00～17:00 (受付開始 12:30)

会場

石川県地場産業振興センター本館 2F
第1研修室

石川県金沢市鞍月2丁目1番地

約200名の参加がありました

プログラム

基調講演 ●
「地方の道をいかに守っていくか」
～ナガサキにおけるインフラ長寿命化の取り組み～
松田 浩 (まつだ ひろし)



発表 ●
「北陸三県のインフラ管理者から見た維持管理の状況」
発表者：石川・福井・富山各県の維持管理担当職員

パネルディスカッション

①「北陸三県コンクリート診断士会および教育機関による人材育成の取り組み」

北陸三県コンクリート診断士会会長、津田誠/石川工業高等専門学校准教授

②「北陸SIPによる地域実装支援の取り組みから見てきたコンクリート診断士会への期待」

市町自治体維持管理担当職員、深田幸史/金沢大学教授、伊藤始/富山県立大学教授

補修セメントを型に入れてミッキーマウス作りも行いました



参加者全員がグループに分かれて意見交換



《今後の目標》

これからは、インフラの維持管理の大切さを多くの方に知ってもらうことが重要であると感じ、活動対象を少し広げることを行ってきたいと思います。そのための、特定非営利活動法人（NPO）への移行も6月の定期総会で承認され、現在申請中です。

地区診断士会の紹介

NPO法人大分県コンクリート診断士会

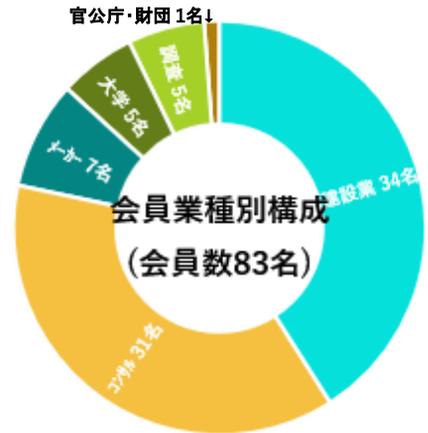
大分県コンクリート診断士会では、6月1日に第13回目となる通常総会が行われ、平成30年度の活動がスタートいたしました。NPO法人として活動を始めて13年、これまでに会員数は順調に増え、大分県内のコンクリート診断士資格保有者のうち、約半数となる83名が会員として参画していただいております。我々の主な事業として、『技術者育成に関する事業』と『技術力向上に関する事業』を行っています。

本年度の活動の特徴としては、例年秋に開催していた技術講演会を夏開催で企画しているところです。技術講演会では『出張費を払わず聴ける高度な技術講演会』をコンセプトとし、遠方から著名な講師を招いていることから、毎年多数の参加をいただいております。

なお、夏開催に変更した大きな理由は災害です。近年、自然災害の激甚化が懸念されています。昨年度も大分県日田地方を襲った九州北部豪雨(6月)や、大分県南部地方を襲った台風18号(9月)などの風水害により、大分県内の社会インフラは甚大な被害を受けました。我々コンクリート診断士の多くが所属する建設業界やコンサル業界をはじめ、官公庁にとっても、秋は災害復旧との戦いになっているため、本年度は夏開催としました。これから技術講演会開催の夏まで準備に追われて大変ですが、万が一に対応できる技術力を磨く時期と捉え、技術研鑽に励みたいと思っています。

以下の写真は、冒頭でも触れました第13回通常総会の様子や、総会後に行われた業務体験発表会の様子を撮影したものです。業務体験発表会では、毎年多くの質疑応答が飛び交い、笑いも交えながら会員間で技術情報の共有を行っています。ただ、問題なのが発表者選出です。発表者は原則として本会会員から選出していますが、発表資料を準備する期間が年度末繁忙期を終えてから通常総会までの約2ヶ月しかないということで、発表者には大きな負担となっています。今後は、発表者選出方法や賞金制の導入など、この業務体験発表会を活性化させるための検討も行っています。

今後も、郷土の社会インフラを守るため、次世代の維持管理技術者を育成するため、NPO法人大分県コンクリート診断士会は活発な活動を行っています。(執筆：児玉明裕)



第13回通常総会の様子



業務体験発表会の様子

JCD部会活動紹介

総務部会

総務部会は2016年度に設置されまして、2018年度からは東海コンクリート診断士会の竹内が引き続き総務部会長に、宮崎県コンクリート診断士会の岡崎様が総務副部会長を担当しております。既に総会にて報告させて頂きましたが、あらためましてこの場をお借りして総務部会の活動を報告させていただきます。

2017年度の活動報告

- (1) 橋梁点検業務等の歩掛り作成について検討し、種々問題があり、作成を断念
- (2) 細則の改訂についての検討
会長・副会長および指名された会員が各種行事に参加する際の日当支給について内規に追加
- (3) 2018年度の定時総会終了後の特別講演等の計画についての検討
 - ①特別講演と討論会とどちらにするかについて検討した。
 - ②特別講演の場合の講演内容および講師の選定を行った。
 - ③討論会の場合のテーマ 討論会を実施することに決定、企画部会と連携し計画した。
- (4) 2018、2019年度の理事・監事の候補者推薦について検討
JCD理事・監事推薦委員会（会長、副会長、企画部会、総務部会）を3月28日に開催した。
- (5) 企画部会・事務局と協業により定時社員総会準備

2018年度の事業計画

- (1) 2018年度（第9回）定時社員総会の計画および実施
- (2) 定時総会終了後の討論会の計画および実施
- (3) 定款等の会則について必要に応じて検討

定款・細則の改定について

- (1) 定款の改定

| 項目 | 改訂前 | 改訂後 |
|-----------------|---|---|
| (役員の設置) 第19条 | 第19条 当法人に、次の役員を置く。 (1) 理事3名以上 20名以内 (2) 監事1名以上2名以内 | 第19条 当法人に、次の役員を置く。 (1) 理事3名以上 30名以内 (2) 監事1名以上2名以内 |

- (2) 細則の改定

| 項目 | 改訂前 | 改訂後 |
|------------|--|--|
| 第3章 第7条 | (地区の会の設置) 第7条 各地区における活動を効果的に運営するために、地区の会申請書を理事会に提出しその承認により地区の会の設置をすることができる。 地区の会の承認要件は、以下の通りとする。 | (地区の会の設置および退会) 第7条 各地区における活動を効果的に運営するために、地区の会申請書を理事会に提出しその承認により地区の会の設置をすることができる。 また、地区の会が退会する場合には、退会予定日の6か月前までに、退会年月日、退会理由を記載した退会届を書面にて当会会長あてに提出する。 地区の会の承認要件は、以下の通りとする。 |
| 第5章 13条 | 4 ただし、理事の定員を超えた場合は、複数の地区を代表する者が理事または監事となる。(削除) | 4. 地区診断士会から選出される理事・監事は、その地区診断士会会員が全員JCDの会員として登録されていることを条件とする。ただし、地区診断士会会員でコンクリート主任技士等の保有会員はこの限りでない。 5. 法人会員理事は任期2年を原則とし、SA、A会員から選出する。 |

私共、総務部会は日本コンクリート診断士会の縁の下の力持ちになれるよう、事務局にご協力頂きながら円滑に会の運営ができますように努力して参りますので宜しくお願いいたします。

診断士関連記事紹介

コンクリート工学・日経コンストラクション・
土木学会誌等に掲載された記事の紹介
です

※H30.4よりH30.6までをピックアップしています



【日経コンストラクション】

| 巻, 号 | タイトル |
|------------|------------------------------|
| 2018.04.09 | 補修方法まで先回りして提案 |
| 2018.04.09 | 米国の歩道橋崩落、6人志望の惨事 |
| 2018.04.09 | クイズ維持・管理に強くなる 第26回 |
| 2018.05.14 | 床板更新の新たな候補「CLT」 |
| 2018.05.14 | NEWS技術 幅0.05mmのひび割れを100%自動検出 |
| 2018.05.28 | 落ちない橋の作り方 支承を壊して断層変位を受け流す |
| 2018.05.28 | 落橋のメカニズム 阿蘇大橋はなぜ落ちた？ |
| 2018.5.28 | NEWS技術 車道をまたいでトンネル内を点検 |
| 2018.05.28 | 新製品 狭い橋桁や高所遠隔点検、ひび割れを自動で色分け |
| 2018.06.11 | 身近になる インフラ管理ビジネス |
| 2018.06.11 | 新製品 表面含浸材の効果が12%向上 |
| 2018.06.25 | レーザーに夢中 施工も維持管理も一度使うとやめられない |
| 2018.06.25 | NEWS 技術 コンクリート内の腐食を見抜くチタンワイヤ |
| 2018.06.25 | コンクリート診断士 試験直前対策 |

【コンクリート工学】

| 巻, 号 | タイトル |
|-------------|-----------------------------------|
| Vol.56.No.5 | 特集*ブレイクスルーのための材料研究 |
| Vol.56.No.5 | 2.1 鉄筋コンクリート造建築物の限界状態再考 |
| Vol.56.No.5 | 2.2 コンクリート中の鋼材腐食発生限界塩化物イオン濃度 |
| Vol.56.No.5 | 2.3 空隙水のアルカリ制御によるASRに対する材料設計 |
| Vol.56.No.5 | 2.4 コンクリートの凍害メカニズムと気泡の役割・制御 |
| Vol.56.No.5 | 2.5 コンクリートのスケール抑制対策の実践的検討 |
| Vol.56.No.5 | 2.6 浜岡1号機原子炉建屋コンクリートの強度変化 |
| Vol.56.No.5 | 3.4 コンクリートの表層透気性に関する研究 |
| Vol.56.No.5 | 3.5 新しいコンクリート中鋼材腐食速度測定法(サイブ法)の紹介 |
| Vol.56.No.5 | 4.1 ASRと遅延型エトリングライト生成の研究を振り返る |
| Vol.56.No.6 | コンクリート構造物の品質・耐久性に関する東北地方の基準類の構築 |
| Vol.56.No.6 | 土木学会技術推進機構「垂井高架橋モックアップ評価委員会」の成果概要 |
| Vol.56.No.6 | 土木コンクリート構造物(鉄道)の検査入門①鉄道構造物の検査体系 |

診断士関連記事紹介

コンクリート工学・日経コンストラクション・土木学会誌等に掲載された記事の紹介です

※H30.4よりH30.6までをピックアップしています



【セメントコンクリート】

| 巻, 号 | タイトル |
|--------------------|---|
| No.854, 2018.4 | 耐凍害性を確実に付与できる中空微小球を用いた コンクリートの気泡制御技術 |
| No.855, 2018.5 | コンクリート構造物の長寿命化に向けた補修技術の研究《その3完 断面修復材の付着強度に関する検討》 |
| No.855, 2018.5 | 抄訳/第11回コンクリート舗装国際会議から No.15 薄層鋼繊維補強高強度コンクリート(SFR-HSC)を用いた重交通鋼橋の補強工法 |
| No.8554, 2018.4 | コンクリート構造物の長寿命化に向けた補修技術の研究 《その2 ひび割れ注入工法の注入充填性に及ぼす施工 温度の影響》 |
| No.856, 2018.6 | 2017年制定土木学会コンクリート標準示方書[設計編], [施工編]の概要 |
| No.856, 2018.6 | コンクリート道路橋狭隘部における電気防食工法の適用 |
| No.856, 2018.6 | 抄訳/第11回コンクリート舗装国際会議から 再生骨材とエポキシ樹脂塗装鉄筋を用いたCRCPのサステナビリティ(長期供用性) |

【土木学会・土木学会論文集】

| 分類 | 出典 | 巻, 号 | タイトル |
|----|-------------|---------------|---|
| 0 | 土木学会誌 | Vol.103, No.5 | 特集 土木を切り開く材料の可能性 |
| 0 | 土木学会誌 | Vol.103, No.5 | コンクリート構造物長寿命化のための耐食鉄筋開発 |
| 0 | 土木学会誌 | Vol.103, No.5 | CO2排出量ゼロ以下の環境配慮型コンクリート「CO2-SUICOM」の可能性 |
| 0 | 土木学会誌 | Vol.103, No.5 | CFRPを用いた鋼構造物の補修・補強技術 |
| 0 | 土木学会誌 | Vol.103, No.5 | ひび割れのモニタリングに資するクラックセンサ |
| 2 | 土木学会論文集E2 | Vol.74, No.2 | コンクリートの各種化学膨張現象に対する総エネルギー一定則に基づく統一的数値解析法の提案 |
| 2 | 土木学会論文集E2 | Vol.74, No.2 | 雨掛かりの有無が中性化によるかぶりの剥離・剥落に及ぼす影響に関する研究 |
| 2 | 土木学会論文集E2 | Vol.74, No.2 | かぶりの諸特性が電気化学的測定結果に与える影響の実験的検討 |
| 3 | 土木学会論文集F1 | Vol.74, No.1 | トンネル覆工の定量的な健全度評価手法に関する検証 |
| 4 | コンクリート工学論文集 | Vol.29 | 表面吸水試験を用いたコンクリート床版上面の品質評価方法の検討 |
| 5 | 土木技術資料 | Vol.60, No.4 | 超過作用に対する橋の損傷シナリオをデザインする新たな考え方 |
| 5 | 土木技術資料 | Vol.60, No.5 | 維持修繕工事の積算に関する改善の取組み |
| 5 | 土木技術資料 | Vol.60, No.5 | ダムの変動特性の可視化による分析 |
| 5 | 土木技術資料 | Vol.60, No.5 | 車両の衝突により主桁が損傷したPC橋の状態評価と復旧事例 |
| 5 | 土木技術資料 | Vol.60, No.6 | 下水道圧送管路における硫酸腐食箇所の効率的な調査技術 |
| 8 | 国交省 | | 平成29年度国土交通白書(H30.6) |

新技術等の紹介

完全非破壊によるあと施工アンカーの健全性評価システム

アンカーパルステスター

アンカーの長さ測定・定着部の健全性評価を1台で実施可能！



アンカーパルステスターは、超音波法によってあと施工アンカーの長さを測定する機能と、電磁パルス法によってアンカー定着部の健全性を検査する機能を併せ持ったハイブリッド機です。

測定状況や測定者の技量による影響が小さく、再現性の高いデータが完全非破壊で取得できます。

測定イメージ

超音波法による埋め込み長さの測定

超音波法を用いて、アンカーの長さ測定を行います。
※D13異形鉄筋で1500mmまで測定可能

現場名 AMIC LABO
G1 81% 1003.5 mm G2 19%
アンカー No. A-002 アンカー公称長さ 1000mm
測定者 田嶋 隆彦 音速 5920m/s
測定日 2018/04/20 14:20 異形鉄筋 D13

電磁パルス法によるアンカー定着部の健全性評価

データを解析

時間軸波形

周波数スペクトル

複数の評価指標を用いた定着状況評価

電磁パルス法では、独自の評価指標を用いてアンカー定着部の状態を○・△・×の3段階で評価します。

新技術等の紹介

世界初！廃棄生コンを原料とした超低炭素コンクリートを開発 スラッジ再生セメントと産業副産物混和材を併用した クリーンカーフリーコンクリート製品の開発研究

◇概要

- ・有効な再利用手段に乏しい戻りコンクリートを原料としたスラッジ再生セメント(SRセメント)を実用化し、実用性・経済性を併せ持つ革新的な**超低炭素コンクリート**製品技術であるクリーンカーフリーコンクリート(一般セメント使用時に比べCO₂排出量90%削減)を世界に先駆け開発。
- ・従来の低炭素コンクリート技術は、耐久性の不足から構造用には不向きで適用に限定があるのに対し、本技術では汎用的に鉄筋コンクリート(RC)構造物へ使用できる性能を初めて実現。



図1 SRセメントと製造設備

◇連携の特徴・工夫

- ・連携三者の得意分野である再生セメント製造技術(三和石産(株))、コンクリート配合技術(東海大学)、設計・施工技術(鹿島建設(株))を**最適に組み合わせ**、画期的なクリーンカーフリーコンクリート技術を確立。
- ・東海大学の共同研究者は、神奈川県庁の廃棄物行政について助言する立場であり、廃棄物行政のニーズを深く理解し、ニーズに合わせた研究の方向性を適切に設定する上で大きな役割を担った。

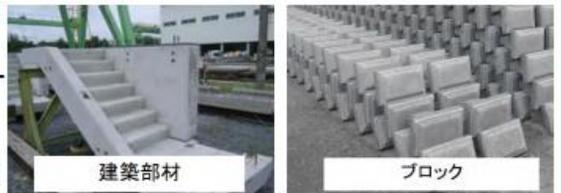


図2 開発するコンクリート製品例

◇連携の効果(連携によって可能になったこと)

- ・有効利用方法が従来なかった**年間200万m³**に達する戻りコンクリート起源の廃棄物がリサイクル製品として利用できる基盤が整備され、さらにはフライアッシュなどの産業副産物混和材を併用することで**廃棄物削減に大きく貢献**する技術を確立。

◇社会・技術・市場等への貢献

- ・三和石産(株)と東海大学が立地する神奈川県内で、原料副産物である戻りコンクリートの集積から、再生セメントの製造、コンクリート製品の製造までを展開し、**地産地消**を原則とする事業を計画し、神奈川県庁の廃棄物行政に寄与することを強く意識。

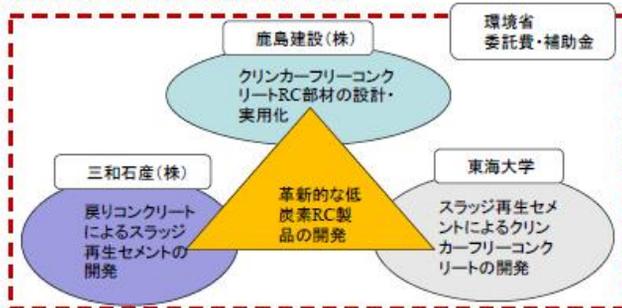


図3 連携三者の開発分担

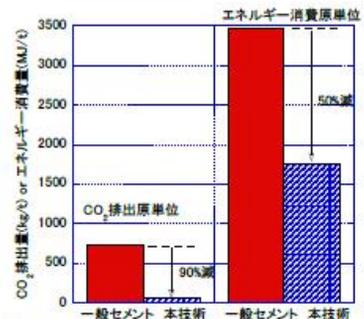


図4 本技術による環境負荷の低減

<用語解説>

※戻りコンクリート：様々な理由から工事で使用されずに生コン工場へ戻され廃棄される生コンクリート。

平成29年度
地球温暖化防止活動環境大臣賞 受賞
(鹿島建設株式会社、三和石産株式会社、学校法人東海大学)

三和石産株式会社
テストング事業部

〒252-0823
藤沢市荻蒲沢仲之塚710番地
TEL 0466-48-5515
FAX 0466-48-5510

JCD・地区診断士会からのニュース

○福井県コンクリート診断士会

【活動実績】

- ・平成30年3月20日
勝山市の技術職員向けの勉強会にて、石川会長が「福井県におけるコンクリート構造物の劣化の現状と維持管理」をテーマに講演を行いました。
- ・平成30年4月27日
JCI中部支部の調査研究事業として、北陸三県のコンクリート診断士会による合同フォーラム「これからの維持管理を担う人材をいかに育成するか」を金沢で開催しました。
- ・平成30年5月23日
「戦後福井の復興とコンクリート技術・意匠の可能性に関する研修会 ～五十嵐直雄設計「福井神社1957」から学ぶ～」を福井県建築士会や福井県建築士事務所会と合同で開催しました。
- ・6月28日に定期総会を開催します。本会の正会員が144名になりました。

○鳥取県コンクリート診断士会

【活動実績・予定】

- ・平成30年度の総会を6月8日実施しました。本年度活動計画として、①鳥取県建設産業担い手育成の活動、②新設・補修工事現場見学、③補修設計者と施工者との意見交換会、④座学、⑤SIP（江島大橋新技術実装試験への関与活動）を予定しています。

○島根県コンクリート診断士会

【活動実績】

- ・島根県コンクリート診断士会は15名により設立後、13年目を迎えることになり、去る6月9日に島根県松江市にて総会兼技術研修会を開催しました。研修内容は、幸前会員による「トンネル補修工事事例に関する劣化原因の考察」と、「ポリマーセメントモルタル乾式吹付工法によるコンクリートの補修・補強工法」について、日本コンクリート補修・補強協会のStoCretec Japan株式会社 下枝博之氏に講演していただきました。（会員参加者52名）

○東京コンクリート診断士会

【活動実績】

- ・5月19・20日コンクリート診断士受験対策講習会を開催し、51名が参加しました。
- ・5月28日（月曜日）第14回定時総会を開催しました。

【活動予定】

- ・7月31日（火曜日）13時よりJCIにて第22回技術セミナーを開催いたします。
主な講演内容は「シールドトンネルの維持管理」「画像解析によるひび割れ点検技術」「補修対策施工マニュアル」です。

○大分県コンクリート診断士会

【活動予定】

- ・8月17日（金）13:00～第23回技術講演会を開催します。
講師は北海道大学の上田多門教授、リペア会から松永昭吾さん他1名を予定してます。
詳細はHPIに7月上旬掲載予定です。ご出席可能な方は、来県ください。

○高知県コンクリート診断士会

【活動実績】

- ・4月4日（水）・27日（金）役員会開催 サンピアセリーズ
- ・6月2日（土）・23日（土）「2018年度コンクリート診断士受験対策講座」開催 ポリテクセンター高知 20名参加
- ・6月30日（土）「2018年度通常総会・研修会」開催 サンライズホテル 30名参加

【活動予定】

- ・8月23日（木）～24日（金）山口県視察「山口県品質確保システム」について
- ・9月28日（金）設立10周年記念講演 第9回コンクリート技術研修会「コンクリートサミット in 高知」高知工科大講堂

JCD・地区診断士会からのニュース

○新潟県コンクリート診断士会

【活動予定】

- ・7月11日(水) 平成30年度通常総会及び設立10周年記念式典を市内ホテルにて開催予定です。

設立10周年記念式典では、日本コンクリート診断士会の林会長を来賓としてお迎えし、祝辞を賜る予定です。また、長岡技術科学大学丸山久一名誉教授から、「社会インフラの維持管理と診断士会の役割について」と題したご講演を賜ります。

○北海道コンクリート診断士会

【活動実績】

- ・4月「平成30年度 第10回通常総会」を開催致しました。
- ・4月「平成30年度 講演会」を開催致しました。
- ・6月「平成30年度 普及講習会」を開催致しました。

【活動予定】

- ・7月下旬「平成30年度 第1回コンクリート診断技術研修会」を予定しています。
- ・9月下旬「平成30年度 第2回コンクリート診断技術研修会」を予定しています。

○東海コンクリート診断士会

【活動実績】

- ・5月30日(水) 平成30年度 東海コンクリート診断士会定時総会 特別講演 開催
(参加者数 総会55名、特別講演66名、懇親会52名)
- ・6月11日(月) コンクリート診断士受験対策講座 開催(受講者45名)

【活動予定】

- ・7月11日(水) 業務体験発表会開催予定(定員100名) **受講者募集中！！**
- ・10月頃 現場見学会 計画中

○宮崎県コンクリート診断士会

【活動実績】

・宮崎県コンクリート診断士会です。4月は年度初めということもあり、決算や総会に向けての準備に追われています。4月11日は2017年度の会計監査を今西監事から受け、無事に適正な会計処理が行われていることを承認いただきました。2018年度の計画も大方できあがり、総会日程も6月26日決まりました。今後は総会に向けて、会員への案内配布や、資料作成に入ります。

以上、各地区診断士会からのニュースです。

次回もご活躍のニュース・トピックスお知らせください！ お待ちしています・

投稿記事募集

維持管理に関する、新技術等の情報がありましたら、会員の皆様に紹介して行きたいと考えておりますので、情報提供をお願いします。

新技術に限らなくても、会社PRでも構いませんので、どんどん記事の投稿をお願い致します。

何かありましたら、JCD事務局まで…

メールアドレス: info@jcd-net.or.jp